

## 水稻種子生産における 種子予措～育苗期のもみ枯細菌病およびばか苗病防除体系

### 【1 成果の概要】

- (1) DMI 剤と銅剤の混合剤（商品名：モミガードC水和剤、テクリードCフロアブル）による種子消毒およびイソチアニルを含む箱施用剤（商品名：ツイインターボ箱粒剤 08、スタウトダントツ箱粒剤 08）の播種時覆土前処理により、もみ枯細菌病に対して高い防除効果が得られ、プール育苗により防除効果はさらに高まります（図1）。
- (2) 銀水和剤（商品名：シードラック水和剤）による種子消毒は、もみ枯細菌病菌に対して高い防除効果を示し（図2）、DMI 剤（商品名：スポルタック乳剤、テクリードCフロアブル）を併用することで、ばか苗病に対しても同時に高い防除効果が得られます（表1）。
- (3) 上記より、水稻種子生産における種子予措～育苗期の防除体系を下図の通りとします。

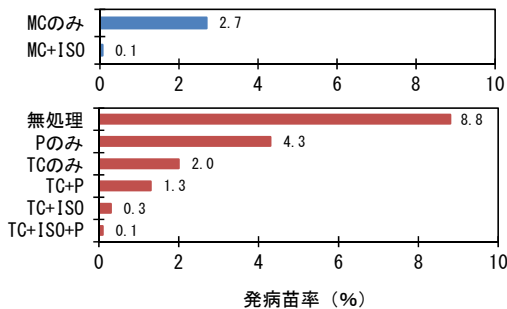
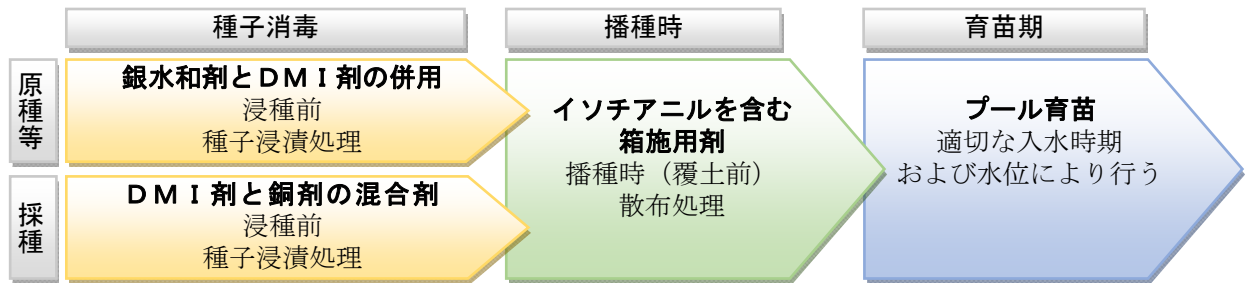


図1 各種防除方法のもみ枯細菌病（苗腐敗症）に対する効果（上：平成24年、下：平成26年）

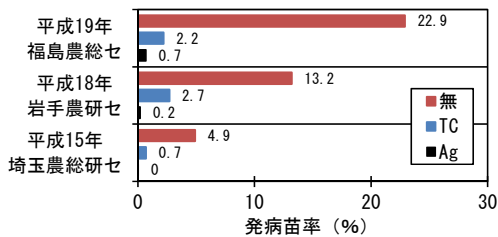


図2 銀水和剤のもみ枯細菌病（苗腐敗症）に対する防除効果（日植防新農薬実用化試験成績より）

表1 銀水和剤とDMI剤の併用によるばか苗病の防除効果

薬剤	処理方法※1	発病苗率 (%)
Ag+S	連続	0
Ag+S	混用	0
Ag+TC	連続	0
Ag+TC	混用	0
Ag	単用	5.1
無処理	—	100

※1 処理方法 連続：銀水和剤処理後にDMI剤処理  
混用：2剤を同時に所定濃度に希釈し処理

※2 生育に対する影響（葉害）

- ・Ag処理で催芽後に発芽促進が認められた
- ・Ag処理で軽微な根上りが発生し、特にAg+S連続処理区で発生がやや多かった

#### 図1、図2、表1 摘要

- 各試験とも、汚染種子を使用
- 各防除方法の詳細は以下のとおり
- ・MC：モミガードC水和剤、200倍、浸種前24時間浸漬処理
- ・TC：テクリードCフロアブル、200倍、浸種前24時間浸漬処理
- ・ISO：スタウトダントツ箱粒剤08、50g/箱、播種時覆土前散布処理
- ・P：プール育苗
- ・Ag：シードラック水和剤、200倍、浸種前24時間浸漬処理
- ・S：スポルタック乳剤、1000倍、浸種前24時間浸漬処理

### 【2 留意事項】

- (1) 銀水和剤による種子消毒は、催芽時の発芽促進、根上り、出芽不揃い等を生じる場合があります。このような障害を最小限に抑えるためには、きめ細やかな管理が求められるため、原種等の生産で使用することとし、岩手県農作物病害虫・雑草防除指針に採用していません。
- (2) 水稻種子伝染性病害は、種子予措～育苗期の耕種条件（温度・水管理等）により発生が助長される場合があるため、これらの期間の耕種的な基本管理を徹底することが重要です。

担当研究室 環境部 病理昆虫研究室、技術部 作物研究室

〒024-0003 岩手県北上市成田20-1 TEL. 0197-68-4424 FAX. 0197-71-1085